

4月4日(月)

知恵のある者 対 愚か者

聖書朗読 箴言 14:1~7

「知恵のある女は家を見て、愚かな女は自分の手でこれを壊す。」

箴言 14:1

♪賢い人が家を見てた。岩の上に家を見てた。愚かな人も家を見てた。雨が降ってきた。♪この讚美歌を歌って大きくなった方もおられるでしょう。

箴言14章では、ある女が家を見ています。ところが、せっかく家が建った途端に、神様を敬わないがゆえに壊してしまいます。何でも自分でやろうと決め、彼女自身を含め彼女が持っているすべての物を創られた神様を認めないということは、どんなに良い建物を建てたととしても壊してしまうことになるのです。

知恵と愚かさの葛藤の結果は、神様が敬われているか、認められているか、それとも蔑(ないがし)ろにされているかによって決まります。神様が敬われていれば知恵が勝ちます。知恵は美德であり、私たちは知恵を得ようと祈り努力します。でも、自己陶醉のあまり混乱することがよくあります。自分でやろうとする愚かな企てによって、キリストにある知恵への道から外れてしまうのです。

家を新築した経験がありますか。改装したことはありますか。私たちは、いとも簡単に「些細なこと」にとらわれ、神様を敬い神様の愛を分かち合う家を建てるといふ主たる目標を見失ってしまいます。今日、家を建てるとき、神様の知恵をいただいでください。神様の知恵は私たちを守るばかりではなく、私たちが心から愛する人たちにも及びます。

子どもさんびか かしい人とおろかな人

祈り 神様、どうぞあなたの知恵で満たしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

シェリー・リームズ
テキサス州 ラボック

御茶の水キリストの教会

4月5日(火)

神様にあって休む

聖書朗読 箴言 24:30~34

わたしは心が柔和でへりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。

マタイ 11:29~30

箴言24章33~34節を聞いて、朝起きて学校へ行ったり仕事に行ったりする時のモチベーションにしていたのを覚えていますか。「少し眠り、少しまどろみ、少し腕を組んで横になる。すると、付きまとう者のように貧しさが、武装した者のように乏しさがやって来る。」

怠惰を戒めるのは良いことですが、だからと言って、私たちは四六時中ずっと働いていなければならない、いつも忙しくしていなければならない、常に働きづめでいるべきだという訳ではありません。人生にはバランスをとらなければならないことがたくさんあります。

7日目までに神様は、なさっていたわざを完成し、7日目にすべての創造の御業をやめられました。

旧約聖書の安息日の背後にある教えをよく考えてみましょう。神様を覚えて休む、神様は私たちの成し遂げ得るすべてのものにまさって尊ばれるべきお方であることを覚え、身も心もリフレッシュされるように、仕事をやめて休むよう促すものです。適切に休みなさいという教えはあらゆる時代の人々に役に立ちます。昔のイスラエル人限定のものではありません。

ちょっと休んだり、休憩したり、1日お休みをもらったり、休暇を楽しんだりしていても、わがままではありません。私は神様の御力をたたえ、神様がお創りになった身体を休ませているのです。

讃美歌 12

祈り 創造主なる神様、私の目を開けて、あなたの献身に倣うことができるようにしてください。心身の休息とバランスのとれた良い働きができますように。

主イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ダニー・マイズ
テキサス州アマリロ

4月6日(水)

雪のように白く

聖書朗読 イザヤ 1:13~20

さあ、来たれ。論じ合おう。——主は言われる。——たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のように白くなる。

イザヤ 1:18

一年で一番寒い時季である冬、気温は下がり、景色は灰色がかった暗いムードに包まれています。家にこもって暗く退屈な日々を過ごします。気分を明るくしてくれる暖かい太陽が見えないので、少々憂鬱な気持ちのままにいる人がたくさんいます。でも時々、雪を見て目が覚めます。すばらしい！あらゆる汚れを覆うきれいで清らかな雪片は、驚異の念と静かな平和と平穩の感じを呼び覚まします。

すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができません。(ローマ3:23) 罪悪感ゆえに私たちはイヤな気持ちになり、悲しんだり、うんざりしたり、絶望したりします。でも、キリスト・イエスの血によって、私たちの罪は赦され、私たちの傷は清められて雪のように白くしていただけるのです。(Iヨハネ1:7)「もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」神様との交わりは真の平安を与えてくれます。神様のすばらしい贈り物を覚えましょう。

讃美歌 276

祈り 親愛なるお父様、私たちの罪のためのいけにえとして御子をお与えくださったことを感謝します。私たちの罪が赦されていることを知り、平安を見出すことができるように助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

コニー・シンプキンス・トーマス
ケンタッキー州 マウント・ワシントン

4月7日(木)

きよい宗教

聖書朗読 イザヤ 57:14~21

神へのいけにえは 砕かれた霊。打たれ 砕かれた心。
神よ あなたはそれを蔑(さげす)まれません。

詩篇 51:17

クリスチャンとして歩み始めた初期の頃、私は聖書に出てくる「宗教」という言葉が必ずしも肯定的な言葉ではないと知って驚きました。だって、私たちは宗教的ではないんですか。

実際、「宗教」と訳されている言葉はふつう否定的に使われ、ヤコブの手紙1章27節ではきよい宗教というように、きよくない宗教と区別するために、きよいという形容詞を付けています。聖書は見せかけの信心深さ、外面上どう見えるかと、内からにじみ出す真の信心深さを明確に区別しています。

マタイの福音書23章で、イエス様は外側は美しく見えても、内側は汚れていっばいの白く塗った墓についておっしゃっています。(27節)あるいは、十分の一を納めている信心深いユダヤ人は、一見惜しみなく与えているように見えるが、その実、信心深い人だという評判を得たいがために、そうしているのだとおっしゃっています。(23節) これらがきよくない宗教の実情です。

宗教とキリスト教は同じことを表してはいません。パウロはアテネのギリシャ人たちに「宗教心にあつい」方々と呼びましたが、彼らはキリストの福音を知りませんでした。神様は心をご覧になります。外面上の公の礼拝行為は正しいとしても、心がふさわしくないことがあります。願わくは、私たちの礼拝がつねに神様をほめたたえる真心からのものでありますように。

讃美歌 279

祈り 聖なる神様、イエス様の血潮によって、あなたのみ前に聖なる者とされますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ボブ・マイズ
テキサス州 ラボック

4月8日(金)

馬と走り競う

聖書朗読 エレミヤ 12:1~5、14~15

けれどもこの私は 足がつかずきそうで 私の歩みは滑りかけた。

詩篇 73:2

宗教的な言葉が書いてあるバンパーステッカーは、神様への礼拝を、マグカップに付けられるような簡単に覚えられる格言へと変えたりします。思い出すのには良いし、ほっこりした気持ちにさせるかもしれませんが、私たちの日常の課題に必要な勇気を与えてはくれません。

エレミヤは、そういう問題と闘っていました。彼は悪者が富み、裏切り者が繁栄するのを見ました。「なぜ、悪者の道が栄えるのですか。」と嘆き悲しみました。

エレミヤと同じように感じない人がいるのでしょうか。神を信じない者はまるっきり悩んでいないように見えます。片やあなたは化学療法室で点滴を受けたり、家族の死からどうやって立ち直ろうかと悩んでいたり、またはエレミヤのように、祖国民がばらばらになるのを見たりしているのにです。バンパーステッカーの言葉は私たちに必要な力を与えてはくれません。

神様が「聞きなさい。」とおっしゃる時にこそ力が与えられます。長い目で見れば、神様の義とあわれみは悪者の上にも及びます。(15節) 彼らは一見、神様に祝福されているように見えますが、神様はだまされはしません。彼らの繁栄は長続きしません。試練にある時、神様に信頼しましょう。神様だけが信頼できるただ一人のお方です。

讃美歌 270

祈り 父なる神様、私たちはつい苦しんでいるのは自分たちだけだと思い込み、他のみんなは上手く行っていると思いがちです。エレミヤへのあなたの御声を聞き、馬と走り競うためには、あなたへの信頼と、人生のレースにおける

忍耐が必要だということを覚えさせてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。



バンパーステッカー

ブルース・W・ローグ
カリフォルニア州 マーセッド

4月9日(土)

朝ごとに新しい

聖書朗読 哀歌 3:1~27

実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ。
それは朝ごとに新しい。あなたの真実は偉大です。

哀歌 3:22~23

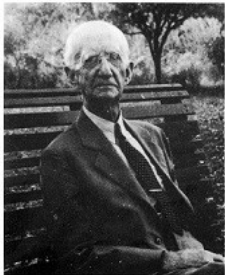
「主のまことはくしきかな まよいなやむこの身を とこしなえに変わらざる
父のもとにみちびく」(Ⅱ讚美歌191番) トーマス・オブアデヤ・チザムは生涯に
1,200もの詩を書きました。彼は成人してからほとんどずっと病苦にさいなまれて
いたために、並以下の収入しか得られませんでした。そのような境遇にありながら、
彼は「みめぐみもて 支えたもう たたえまつらん わが主を」と謳いました。

破壊と絶望のただ中にありながら、預言者エレミヤはかすかな希望を見出しました。
ネブカデネザル王はエルサレムを包囲し、神殿もろとも街は焼き尽くされました。
40年以上にわたってエレミヤは、バビロンがユダを打ち負かし、エルサレムを滅ぼ
すと預言してきました。しかし、それがついに現実となった時、ほくそえんで「だから
言ったのではないかも」とは言いませんでした。エレミヤは現状を見て悲嘆にくれ、5
つの折句詩(各行の最初や最後の文字をつなぐとある語句になる韻文)を書き、それが
哀歌になりました。哀歌全体の顕著なテーマは嘆きです。でも3章で、エレミヤは希望
の光を見出しています。神様のあわれみは尽きることがないことを知っていたから
です。主はいづくしみ深い。主に望みを置く者、主を求めたましいに。主は、私
たちが悩む時、そばにいてくださいます。主のあわれみは朝ごとに新しいのです。

讚美歌 525

祈り 主よ、私たちをとりまく状況が絶望的に思える時、あなたのおそばにお
らせてください。あわれみと恵みを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。



— Thomas Obadiah
Chisholm
(1866~1960)

スコット・ゲージ
アーカンソー州ファイエットビル

4月10日(日)

希望と絶望

聖書朗読 哀歌 3:49~58

私があなただを呼び求めると、あなたは近づき、『恐れるな』と言われました。

哀歌 3:57

哀歌は、広義では、巻全体を通じて表されている希望と絶望の満ち引きと言える
でしょう。これらの浮き沈みにはうんざりするかもしれませんが、それこそ私たちが
経験した、経験している、経験するであろう人生のリズムであることは否めません。

私たち自身の霊的生活の中で、力と自信に満ちた時を経験したかと思ったら、誘
惑に負けて恥じ入ることになったなどということがあるのではないのでしょうか。

重い病気で伏せている家族のだれかの枕元にいるとしましょう。医者からの報告は
今日は希望を持たせるものでも、次の日にはがっかりするものだったりします。

愛する人が主ではなく、この世のものを追い求めていることに、ひそかに苦しん
でいるかもしれません。ちょっとした希望が見えたかと思ったら、また車輪が外れて道
を逸れてしまいます。

ここではもちろん、預言者エレミヤは民と彼自身に起こりつつあることを嘆いて
います。彼は城の内外に迫る敵のために苦しんでいました。神様は彼の祈りをお聞き
になれない、お聞きになろうとなさらないように思えました。その時、「恐れるな。」
という希望の音が聞こえました。

ああ主よ、私たちの祈りをお聞きください。主よ、あなたの御声が聞こえるよう
に助けてください。

聖歌 472

祈り 主よ、絶望の淵に沈む時、大丈夫だというあなたの御声を聞かせてくだ
さい。イエス様のお名前によって。アーメン。

クリス・フリッゼル
テキサス州 グランベリー